

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		リアン稲城		公表日		令和6年 11月 1日		
	チェック項目	はい	いいえ	意見	改善目標・工夫している点・取り組み状況など			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・活発なお子様が多い日は、手狭になるので、外に連れていき発散させるようにしている。	・法令に基づく指定基準40㎡に対して、約59.7㎡の広さの活動スペースを確保しています。活動室と静かな部屋を用途別に区別し、こどもの活動内容や特性に応じて、安心して安全に過ごせるよう配慮しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	・職員以外にも外部講師やボランティア、実習生も入っており、専門的な支援の視点や、多様な視点が入ってとても良い。若い人が入ることで、負担も減る。 ・20代から60代までの幅広い年齢層の支援員がいて、フレッシュな視点、経験と柔軟性、深い知恵と落ち着きなど多様な支援が可能になり、チーム全体の成長や効率的な役割分担にもつながっている。 ・人数が少ない時は、全てに余裕が持てない気がする。 ・ギリギリを感じる。活動へ参加できない利用者への対応が不十分になる時があり、もっと人員を増やしてほしい。	・法令で定められた職員配置基準を遵守しており、さらに加算要件も満たした人員体制を整えています。ダンス、リトミック、ヨガなどの専門講師を招き、ボランティアや実習生も積極的に受け入れています。今後もより良い支援を提供できるよう、余裕を持った人員配置を目指し、研修を通じて職員の専門性向上にも努めてまいります。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0		・1階フロアがすべてフルフラットで、バリアフリー設計となっています。こどもがわかりやすい構造や情報伝達に配慮した環境整備を行い、障害の特性に合わせた設備を整備しています。低身長の子どもが安心して利用できるように、トイレや手洗い設備の高さを3段階に分けています。今後も、こどもと保護者のご要望に柔軟に対応し、さらなる安全で安心な施設環境を提供してまいります。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・毎日心地よく過ごせるように、清掃、消毒を行っています。	・感染防止マニュアルに基づき、室内や車内の清掃を徹底しています。活動スペースと静かなスペースを用途に応じて使い分け、こどもたちが心地よく過ごせる環境作りを心がけています。今後も清潔で安心できる空間作りに一層力を入れてまいります。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・必要に応じて、クールダウンの部屋、カームダウンの部屋として使用してもらっている。	・必要に応じて、お子様が気持ち落ち着かせるために個室を使用する対応を行っております。また、その子どもの状態やニーズに合わせて、静かなスペースや別の活動場所を柔軟に用意しております。個室の使用にあたっては、お子様が安心して過ごせるようプライバシーの確保に努め、安全管理を徹底しております。必要に応じて専門スタッフがサポートし、適切な対応を行うことで、お子様が安心して過ごせる環境を提供してまいります。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	・もう少しじっくりと話し合いができる時間が取れると良いが中々難しいのが現状。	・業務改善を進めるため、業務開始前にミーティングを実施し、職員間で意見交換を行っています。重要事項については、申し送りノートや業務日誌を活用して、常勤・非常勤問わず情報共有を行っています。また、非常勤職員の勤務日が異なるため、全員が参加できる全体ミーティングは難しい状況ですが、その代わりに、小規模なチームミーティングを導入し、業務改善に必要な意見や情報の共有を行っています。今後もPDCAサイクルを意識し、改善と実行を職員全体で進めていく体制を強化していきます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・応援してくれるメッセージはこの仕事をやってよかったなあとと思うし、厳しいメッセージも次につなげられるようにしていきたい。	・保護者からいただいた評価やご意見は、常勤・非常勤を問わず全職員に共有し、疑問点は職員間で確認するよう指導しています。認識が不十分な職員については、研修を通じて資質向上を図ってまいります。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・毎日の申し送りで前日までの様子などについて話している。それを踏まえて毎日の支援を行っている。	・職員の意見や改善提案を把握するため、日々の業務開始前や業務終了後にミーティングを行い、意見交換の場を設けています。さらに、重要事項は申し送りノートや業務日誌に記録し、非常勤職員も含めた職員全員が確認できるようにしています。個別支援計画やモニタリングの内容は、職員間で共有しながら、こどもの状態に応じて適切な支援を行うための意見を取り入れています。今後も職員の意見を積極的に取り入れ、業務改善に反映していきます。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6		・現時点では、第三者による外部評価の導入はしておりませんが、今後必要に応じて法人として導入を検討してまいります。また、虐待防止委員会や身体拘束適正化委員会には、他法人の管理者を第三者委員として招聘しており、客観的な視点からの意見を反映しています。		

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・外部研修にいき、他事業所の話も聞けたのは良かった。	・本年度から、ジョブモデルアカデミーによる動画研修を導入し、全職員が最新の知識や情報を学べる機会を提供しています。加えて、強度行動障害基礎研修には全職員が参加できる体制を整え、職員の資質向上に力を入れています。今後も、研修機会を積極的に設け、職員の成長を促してまいります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・1か月前の利用申し込み書の記入の際にプログラムが公表されています。	・毎月の行事予定表に、5領域に基づいた支援プログラムを一目で理解できるよう、アイコンを付けて表示しています。現在、5領域に基づいた支援プログラムを作成中であり、完成次第、ホームページ上で公表する予定です。これにより、保護者の皆様がいっつも確認できる環境を整えてまいります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0		・入所時に詳細なアセスメントシートを保護者にご記入いただき、その後も最低6ヶ月に1回は保護者面談を実施し、こどもの行動観察をチームで行っています。このプロセスを通じて、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析し、個別支援計画に反映しています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0		・児童発達支援管理責任者だけでなく、常勤・非常勤を問わず、こどもの支援に関わる全職員が意見を出し合い、共通理解のもとで、こどもの最善の利益を最優先に考えた検討を行っています。職員間での意見交換を大切にしながら、常にこどもにとって最良の支援が提供できるよう努めています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	・支援計画が、具体的で子供にかけ言葉も書いてあるので支援しやすい。 ・申し送りの際に共有出来ていると思う。	・放課後等デイサービス計画は、定期的に職員間で共有され、日々のミーティングでも支援内容の確認を行っています。以前、退職した職員が独自の方法で支援を行っていたケースがあったため、今後は計画通りに支援が実施されるよう、情報共有と役割分担の確認を徹底して進めてまいります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		・当事業所では、標準化された複数のアセスメントツールを基に、独自に集約・変更したものを使用しています。新しい職員にもアセスメントツールの作成経緯や読み取り方を丁寧に説明し、理解を深めています。また、ご家族や職員、関係機関と日々の行動観察を共有し、インフォーマルなアセスメントも積み重ね、こどもの適応状況をより正確に把握しています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・5領域に縛られることで、複雑になった気がする。もう少し、柔軟に表記が許されると良いと思う。	・令和6年4月の法改正に伴い、順次新様式の計画書に移行しています。新たな項目を含め、個々のこどものニーズに応じて、放課後等デイサービスガイドラインに基づく「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」および「地域支援・地域連携」を複合的に組み合わせた支援を提供しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	・全員で話し合いをする時間が取れないのが残念。 ・職員に意見を聴いたり、出来上がった後のプログラムを改善したりできているのは良いと思う。	・職員が活発に意見を出せるよう、風通しの良い職場環境づくりに努めています。シフト勤務のため全職員が一度に集まることは難しいものの、できるだけ多くの意見を取り入れ、チームで活動プログラムの立案を行っています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・同じ運動遊びや集団遊びでも内容や子どもたちに合ったルールなどを設定するようにみんなで話し合っている。 ・その曜日の子供の特性を見て、考えている。 ・外出プログラムも多くて、子どももそうだけど、保護者の方に喜んでいただいている。	・感覚統合理論に基づいたプログラムをメインに、動と静の活動を織り交ぜています。季節感のある創作やイベントを取り入れ、お出かけも頻繁に行っています。職員間でアイデアを出し合うとともに、こどもや保護者のリクエストにもできるだけ応え、固定化しない魅力的なプログラムを提供しています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	・利用者の状況に応じて活動内容を設定している。 ・集団活動できないから、やりたがらないからやらせないという単純な発想ではなく、どうしたら参加できるかをみんなで話し合っているのはいいと思う。	・一日の活動では、個別活動と集団活動の時間を区別して実施しています。しかし、集団活動に参加することが難しいこどもに対する配慮が、人員の問題から十分に行き届かない場合もあります。今後は工夫を重ねるとともに、支援員の増員も検討し、より充実した支援を提供できるよう努めてまいります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・毎日の申し送りの中で実施できていると思う。	・支援開始前には打ち合わせを行い、保護者や学校からの申し送りも含めて職員に周知しています。出勤時間が合わない職員については、申し送りノートで情報を共有しています。各職員が自分の役割だけでなく、全体の状況を把握し、臨機応変な支援ができるよう、スキルアップを図っています。

	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・残業が出来ない支援員もいるので、送迎の後など時間が厳しいこともあるけど、他の職員に伝えるようにしている。 ・立ち話のだけけど、伝えあうようにしている。 ・グループラインで情報共有をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後は、職員間で打ち合わせを行うことが多いですが、常勤・非常勤の勤務時間の違いから、打ち合わせができない場合もあります。その際には、気付いた点や注意点を後日、該当する職員に情報共有するよう努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず記録している。 ・記録が支援員によってばらばら。書き方が難しい。 ・送迎が遅くなると記録の時間がどうしても残業になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援については、記録を徹底していますが、記録が支援の検証や改善に十分に活用されていない場合もあります。今後は、記録を有効に活用し、支援の質を向上させてまいります。また、PC入力に不慣れな職員もいて、記録の電子化がなかなか進まない状況にありますが、将来的には記録はすべて電子化していきたいと考えています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しを判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1		<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも半年に1回、本人やご家族、関係機関、職員間でモニタリングを実施し、その結果に基づいて個別支援計画を見直しています。必要に応じて随時見直しを行い、こどもの変化に柔軟に対応しています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインにおいて基本的役割((1)子どもの最善の利益の保障、(2)共生社会の実現に向けた後方支援、(3)保護者支援)を定めた上で、4つの基本活動((1)自立支援と日常生活の充実のための活動、(2)創作活動、(3)地域交流の機会の提供、(4)余暇の提供)を全て含めた総合的な支援を行うことを基本とされており、子どもが意欲的に関わる遊び、運動、工作に加え、音楽や農作業、菜園など様々な体験ができる機会を提供しています。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・創作では色を選択したり、好きなキャラクターを入れるなどの場面でやっている。 ・支援員や施設の都合で無理やりはさせていない。子供たちが楽しめるのが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の中で、こどもが拒否的な態度を示す場合には、部分的な参加や見学を選択できるよう、段階的な支援を行い、自己選択や自己決定を促しています。完全に別メニューのプログラムを提供することは難しい状況ですが、今後は選択肢を増やし、こどもが自己決定できる環境を整備していきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃のこどもの様子をよく理解している児童発達支援管理責任者が、スタッフからの聞き取りを基にサービス担当者会議や関係機関との会議に参加しています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医にもっと協力してほしい。 ・他の事業所からもよく相談にのられたり、電話相談が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や教育相談、相談支援事業所、社会福祉協議会、児童相談所、子ども家庭支援センター、医療機関など、関係機関との情報共有や連絡調整を適宜行っています。今後も関係機関と連携し、地域全体でこどもたちを支援する体制を継続していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方から、学校だよりをいつもメールで送ってくださる方がいて、本当に助かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校やご家族から年間計画、行事予定、下校時間の情報を受け取り、適宜調整を行っています。送迎の都合でお迎えが遅れる場合には、できるだけ早めに学校に連絡し、スムーズな連絡調整を心がけています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3		<ul style="list-style-type: none"> ・現在、就学前に利用していた施設や児童発達支援事業所との連携を取る機会はありませんが、保護者のニーズや必要に応じて各施設・事業所と情報共有を図っていききたいと思います。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	4		<ul style="list-style-type: none"> ・現在までに、放課後等デイサービスを卒業して障害福祉サービスに移行したこどもはいませんが、支援内容の情報を提供できる体制は整えています。今後も必要に応じて、適切な情報共有を行っています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1		<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケースに応じて、地域の児童発達支援センターから助言やアドバイスを受けることがあります。また、必要に応じてご家族とセンターをつなぐ役割も果たしています。今後、センターで研修が開催された際には、積極的に参加してまいります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・城山児童館など、経営が変わって参加しやすくなったと他事業所の職員からの情報があった。雨の日など、ぜひ利用したい。 ・毎年、この設問で思うけど、放課後児童クラブと交流したという事業所を聞いたことがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブや児童館との交流を進めており、これまでに何度か児童館を利用したことがあります。先方の受け入れ状況によって頻繁な交流は難しい状況です。そのため、公園や地域のイベントを通じて、地域の他のこどもたちとの交流の機会をできる限り設けています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長が参加して、情報を伝えてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会の子ども部会に、管理者兼児童発達支援管理責任者が毎回出席しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の時など、出来るだけお話できるように努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の連絡帳や送迎時の情報交換を通じて、ご家庭でのこどもの体調を把握し、支援に活かしています。また、電話やメール、面談を通じて、こどもの小さな変化にも対応できるように努めています。今後も保護者の方々と密に連絡を取り合い、こどもの健やかな成長に向けて、発達状況や課題について共通理解を深めてまいります。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族ごとに抱える課題が異なるため、同一テーマでの研修会の実施は難しい部分もありますが、職員のスキル向上や知識の深化を図り、将来的には研修会の実施も検討してまいります。 	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		・見学時や利用開始の契約時には、資料を提供し、丁寧に説明した上で、十分ご納得いただいた後に利用契約を行っています。今後も、わかりやすく丁寧な説明を心がけ、変更点があれば迅速に書面でお知らせいたします。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		・保護者には個別面談を通じて意向を確認し、子どもには通所時の関わりの中で意思や希望を聞き取っています。子どもの意思を尊重し、最善の利益を優先的に考慮したうえで、意思形成支援や意思表明支援を併せて行いながら、支援計画を作成しています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		・保護者には、個別支援計画の内容を丁寧に伝え、同意を得た上で支援を行っています。お子様の状況や課題、ニーズに合わせた計画を作成し、安心して通所いただけるよう努めています。また、令和6年4月の法改正により、計画の様式が変更されているため、これまで以上に丁寧な説明を心がけています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・助言や支援を行うというまでにはいきませんが、お話を丁寧に聴くように心がけています。 ・施設長が中心に相談を応じていますが、連絡帳や送迎時のやり取りの中で、私なりの意見を伝えるようにしています。	・連絡帳やメール、送迎時の情報共有に加え、必要に応じて個別に電話や直接面談を行い、ご家族とともに子育ての悩みについて考える機会を設けています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	3	・コロナ前には、会社で合同の「リアン祭り」をやっていたと聞いたことがあり、来年あたりにまた出来たらと思う。 ・日々の支援で精一杯なのが正直なところ。	・本年度は法改正の影響もあり、準備に余裕がなく「夏祭り」を実施できなかったことを、誠に申し訳なく思います。普段、施設を知る機会の少ないご家族も参加できるイベントを会社全体で検討しています。また、ペアレント・トレーニングのご希望もいただいております。保護者学習会や交流会の開催についても検討を進めてまいります。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		・苦情対応マニュアルに基づき対応しています。正確な情報（経過、職員の対応）を調査し、改善策を講じるため、一定の時間がかかることがありますが、できる限り迅速かつ丁寧で誠意ある対応を心がけています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・行事予定表やブログで施設の楽しい様子が伝わると言ってもらえると嬉しくなります。	・毎月、行事予定表を通じて活動内容をお知らせしています。また、アメンバープログラムでは活動の様子を発信しており、行事予定表にQRコードを掲載しています。月1回の更新を目指していますが、まだ知らない方もいらっしゃるため、今後お知らせ方法を改善していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・持ち物にお名前を必ず書いていただくようお願いしていますが、時々名前がない方が入って、間違えてしまう事がある。 ・連絡帳に入れる時には間違えないかどうか緊張します。 ・保護者にお渡しするものや、メールなど、ダブルチェックを今以上に徹底したい。	・個人情報の取扱いや管理については、厳重に注意を払っています。子どもの写真については、契約時にご提出いただいた「写真撮影および掲載に関する同意書」の範囲内で使用しています。また、荷物や書類の取り違えがないよう、個人情報の管理には今後も一層の注意を払ってまいります。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・伝え方によって誤解を招くこともあるので、いつも緊張します。メールなどは何人が話し合っているようにしています。	・子どもが自分で次に何をすべきかがわかりやすいよう、環境面に細心の配慮を行っています。たとえば、視覚的な支援として、写真やイラストなどのビジュアルエイドを多用し、ジェスチャーやサイン（マカトンなど）を用いたコミュニケーション手法も活用しています。保護者には、連絡帳やメール、電話など複数の方法で情報を共有し、安心して相談できる環境を整えています。また、必要に応じて面談時に丁寧に説明し、確実に意思疎通が図れるよう努めています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	・事業所の行事に招待することはありません。 ・地域の方が、ボランティアできたいという話ある時は、とても嬉しい。	・現在、地域住民を招待するような大規模な行事は行っていませんが、地域住民のボランティア活動や、大学の実習生を受け入れています。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・マニュアルが多くて、なかなかじっくりと読む時間がないが、何かの時にそれを読めばよいという安心感があるかどうか緊張します。	・緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルはすべて作成しており、さらにコロナ感染症に対応するマニュアルも別途作成しています。これらのマニュアルはいつでも閲覧可能です。今後も、マニュアルの定期的な見直しを行い、内容を充実させながら、保護者や職員と共有していきます。	
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	・会社でチームを作って作ったBCPがある。いつ起きてもおかしくないで大切なことだと思う。 ・子供達と一緒にビデオを観て、一緒に考えクイズ形式で子供達がわかりやすい様に話し合うことはとても良いと思う。	・自然災害や感染症のパンデミックなど、不測の事態が発生した際に、利用者の安全を確保しながら事業を継続するため、業務継続計画（BCP）を策定しています。近日常に、その訓練も実施する予定です。	
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	・保護者様からの情報を元に職員間で共有している。 ・服薬やてんかんについては表にして確認できるようになっている。	・事前に子どもの服薬状況や予防接種の履歴、てんかん発作の有無や頻度などを確認しています。これに基づき、適切なサポートを提供できるよう努めています。必要に応じて保護者とも密に連絡を取り合い、最新の情報を把握しながら支援を行っています。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーの方はいないが、他のアレルギーには対応しています。 ・入職したばかりで、食物アレルギーの話はまだ聞いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、食物アレルギーのある利用児はいません。今後、食物アレルギーのある子どもが通所された場合には、医師の指示書に基づき対応いたします。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・車に置き去り防止のブザーが全車種についている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理に必要な研修や訓練を職員が受講し、現在、法人全体で安全計画を作成中です。今後も、利用者が安全に通所できる体制を整え、必要な措置を講じながら、安心して利用できる環境づくりに努めています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		<ul style="list-style-type: none"> ・現在、法人全体で安全計画を作成中であり、作成が完了次第、家族にも取組内容について丁寧に説明し、周知する予定です。今後も、子どもの安全確保を最優先に、家族との連携を密にしながら、安心して通所できる体制づくりを進めています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットは、口頭でも伝えてもらい、読んだら捺印しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの報告書を作成し、全職員に周知徹底しています。また、法人の常勤会議では、各事業所で出たヒヤリハットの報告を共有し、再発防止に努めています。今後も引き続き、ヒヤリハットが減少するよう努めています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回研修されている。テストもあって、緊張感を持って受講できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止のための研修を全職員に実施しています。また、虐待防止委員会を設置し、虐待が疑われる事案がないか定期的に確認しています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが飛び出した時や、クールダウンで個室対応時など、微妙なことも含めて計画に記載されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、当事業所では身体拘束は行っていません。法人で身体拘束適正化委員会を設置し、子どもや職員の安全を守るために必要と判断される場合にのみ、本人や保護者の了解を得たうえで、個別支援計画に記載しています。身体拘束を極力避けるための支援を計画し、療育を行っています。 ・身体拘束は、「切迫性」「非代替性」「一時性」を満たし、やむを得ない場合に限り実施しますが、気持ちの切り替えや道路への飛び出し、座り込みなどの際に、腕を掴んだり抱きかかえることが想定されます。そのため、児童が安心して過ごせるように、身体拘束に至らない対応についても、念のため個別支援計画の別紙を作成し、保護者の理解を得ています。